



創造する生徒 心豊かな生徒 鍛える生徒

藤花だより

令和5年度 11月号
令和5年10月31日
さいたま市立大宮西中学校
TEL048(624)4339
<https://omiyanishi-j.saitama-city.ed.jp>

「その魂を、その精神を継承する」

～ テセウスの船と伝統 創立49周年目に ～

校長 森角 由希子

合唱コンクールが本校で10月28日に行われました。今年度は、保護者・地域の皆様に、直接生徒たちの歌声を聞いていただけたことをとても嬉しく思います。体育館いっばいに響き渡る生徒たちの歌声は、その場にいる人たちの心が動き、そして心が一つになった瞬間をたくさん味わえるものでした。

合唱は、二人以上の異なる声の響きを合わせる（近づける、ブレンドさせる、）ことにより、その響きは増していきます。ですから、一人で2人分、3人分の声量を出したとしても、実際に2人、3人と複数合わせた響きにはかきません。「1」を100乗しても、1000乗しても「1」であるように、一人で何人分の声量を出そうとも合唱にはならないのです。一方で「自分一人ぐらい声を出さなくても変わらないのでは？」と思う人もいるかもしれませんが、あなたが「0」であれば、いくら掛けても「0」。合唱も、自分も、人との関りの中で育まれていくものだと、生徒たちの歌声を聞きながらつくづく感じました。

さいたま市の駅伝競走大会が、10月24日に行われました。昨年度の3年生の思いをつなぎ、多くの生徒が駅伝の練習に参加してくれました。特に学校の顔である3年生がリーダーシップを発揮し、多くの仲間の思いを支えに一つの襷が手渡された瞬間は、頼もしく感動の言葉につきます。「また来年もやりたい」という声に「苦中有楽苦即楽」という言葉を見付け、彼らの成長を感じました。

さて、今から3年ほど前に「テセウスの船」というドラマを夢中になって見ていました。このドラマのタイトルとなっている命題は、以下のような話です。

ギリシャ神話の英雄テセウスが、怪物ミノタウロスを倒した後、アテネの若者と共にクレタ島から船で帰還しました。そのときの船は、記念として長い年月アテネに保存されていたため、朽ちた木材は徐々に新たな木材に置き換えられ、やがて、すべての木材が新しいものに置き換えられました。さて、新しい木材に置き換えられたテセウスの船は、いまでも「テセウスの船」と呼べるのでしょうか。

学校も「テセウスの船」と同じように、毎年生徒の入学と卒業が繰り返され、職員も入れ替わります。では、今の宮西中学校は、49年前に開校したところと同じなのか、違うのか。学校は「テセウスの船」の木材と同じように、人の入れ替わりがあります。しかし、「テセウスの船」は木材が朽ちたから新しい木材に置き換えられ捨てられたのに対し、学校は人が足跡を残し、成長して育ったから入れ替わり（卒業）があるという違いがあります。育っていった人材が残した足跡は、宮西中学校の伝統として残っていきます。例えば、自主的に地域のボランティア活動に参加する生徒が多いこともそうです。これらを実践し続け、先輩方が築いてくださったこれまでの歴史に恥じないように、しっかりと次の世代に引き継いでいくことは、今を生きる人たちの責任ともいえるでしょう。

学校という場は、人との出会いと別れを繰り返し、そして、組織そのものの改変を繰り返しながら、今日に至っています。そして、将来に渡って、その時代にふさわしいあり方を模索しながら、さらに発展していくことが求められています。

宮西中の生徒の皆さんは、新型コロナウイルス等により時代や社会が変化しても、その流れに柔軟に対応してきました。また、行事に一生懸命取り組み、仲間を増やしていける点についても、今も昔も変わらない宮西中学校のよい面として引き継いでいってほしいと思います。

